

授業科目 NO. 618 緩和ケア論

Palliative Care

授業の形態：講義

単位数（時間数）：1単位（15時間）

開講年次・学期：4年次・後期

必修・選択の別：選択

キーワード：緩和ケアの歴史と定義、緩和ケアの対象、チーム医療、コミュニケーション、意思決定支援、疼痛マネジメント

1 金沢医科大学看護学部への到達目標（全科目共通です）

- ① 豊かな人間性と倫理観
- ② 看護学の知識と技術、及び実践力
- ③ 地域志向を視野に入れた専門性の獲得
- ④ 生涯学習能力
- ⑤ 国際的視野の獲得

2 学 修 目 標

1) 一般目標（GIO）

緩和ケアの対象者とその家族に対する全人的な理解を深めると共に、緩和ケアにおける課題、協働と看護の役割、緩和ケア提供者に求められる能力を学ぶ。

2) 行動目標（SBO）※カッコ内の数字は上記の金沢医科大学看護学部への到達目標との関連を示す。

- (1) 緩和ケアの歴史、定義、対象となる人々の全人的苦痛、倫理的課題について説明できる。(②)
- (2) 緩和ケアにおける他職種との協働の必要性および看護の役割について説明できる。(②)
- (3) がん看護における緩和ケアおよび疼痛を中心とした症状マネジメントについて説明できる。(②)
- (4) 高齢者に対する緩和ケアの特徴について考察し、説明できる。(②)
- (5) 緩和ケアにおけるコミュニケーションで医療者に必要な能力を実施できる。(②)
- (6) 緩和ケア提供者のセルフケアの必要性を学び、自分の考えを述べることができる。(②)

3 学 修 内 容

授業の内容については、授業計画に示す。

4 評価

評価項目	評価割合
定期試験成績	70%
実習成績	%
レポート	30%
授業態度	%
小テスト	%
その他	%
合計	100%

(特記事項) 定期試験は第 1 回、第 2 回、第 6 回～第 7.5 回の講義内容について実施する。

5 教育担当者

科目責任者：平松 知子

教 授 平松 知子 (老年看護学)
 准 教 授 北村 佳子 (成人看護学)
 嘱 託 講 師 直井 千津子 (老年看護学)
 看 護 師 上 埜 千春 (看護部)

6 教育担当者の実務経験

担当教員は全員看護師としての実務経験を有している。

7 教科書

なし

8 推薦参考書

宮下光令：ナースング・グラフィカ成人看護学⑦緩和ケア第 3 版、メディカ出版、2021
 授業中に適宜紹介する。

9 準備学修に必要な時間及び具体的な学修内容

授業 1 コマにつき、事前学修・事後学修として計 180 分程度必要である。

- 1) これまでの授業で学んだ緩和ケアに関する内容について復習しておくこと。
- 2) ガイダンス時に配布する資料を基に、各授業内容および注意事項を確認しておくこと。
- 3) 授業中に指定した場合、授業後にレポートを提出すること。

10 課題 (試験やレポート等) に関するフィードバック

提出された課題については、講義の中で取り上げ解説を行う。

11 履修上の注意事項

緩和ケアについて主体的に学修を進め、積極的に授業に参加してください。

12 オフィスアワー等

随時訪問可能。但し、事前に教員の都合を確認してください。

連絡先

平松知子・上埜 千春 : hiramatu@kanazawa-med.ac.jp

北村 佳子 : kitamu@kanazawa-med.ac.jp

直井 千津子 : c-naoi@kanazawa-med.ac.jp

第4学年

緩和ケア論

学期	回数	開講日	時限	区分	講義・実習内容	レポート/小テスト等	講座・科目群名	教員名
後	1	11月10日（月）	3	講義	緩和ケアの歴史と現状		老年看護学	平松教授
後	2	11月10日（月）	4	講義	緩和ケアにおける協働と看護の役割		成人看護学	平松教授
後	3	11月14日（金）	3	講義	緩和ケア提供者に求められる能力1:緩和ケアにおけるコミュニケーション	レポート課題	成人看護学	北村准教授
後	4	11月14日（金）	4	講義	緩和ケア提供者に求められる能力2:緩和ケア提供者のセルフケア	レポート課題	成人看護学	北村准教授
後	5	11月17日（月）	3	講義	高齢者の緩和ケア		老年看護学	直井講師
後	6	11月17日（月）	4	講義	いまはこうする がん看護 ～患者の力を見出すケア～	レポート課題	看護部	上埜看護師
後	7	11月28日（金）	3	講義	非がん患者の緩和ケア		老年看護学	平松教授
後	8(0.5)	11月28日（金）	4	講義	緩和ケアの実践	レポート課題	老年看護学	平松教授